

最上小国川清流未来ニュース

平成28年11月25日 発行
最上小国川清流未来振興機構

第4号

特集 最上小国川流域の振興に向けた取り組み

下の図は、昨年4月に策定した「最上小国川清流未来振興計画」です。この計画に基づいて、現在、様々な取り組みが進んでいます。最上小国川清流未来ニュースでは、こうした取り組みの動きについて、毎号、ご紹介していきます。今回は、その中から4つの取り組みについてご紹介します。

※アユは最上小国川全川で放流



- 凡例
- 印：地域の将来像を実現するための施策
 - 印・番号なし：全域、全川が対象の施策
 - ◎印：複数箇所を実施する施策の代表箇所



先人から引き継ぎ、未来に伝える 清流文化 最上小国川

- おもてなしの心で癒す
目標：地域の観光者数150万人を目指す。
- 1 物販及び情報発信施設新設の検討
 - 2 流水型ダム周辺整備
 - 3 月楯橋・満沢橋付近での駐車場と進入路の確保
 - 4 遊歩道の整備
 - 5 共同浴場とふかし湯の整備
 - 6 歴史的な赤倉温泉街の継承・発展
 - 7 温泉地等の魅力向上の推進
 - 8 「川の駅」でのイベント開催
 - 川床の茶屋設置方策の検討
 - イベントの連携検討
 - 親水空間創出の推進



- 地元ブランドで活性化する
目標：雇用の確保につながるブランド品の創出3品目を目指す。
- 6次産業化の推進 (アユ加工品等の開発支援)
 - 地域ブランド商品の開発
 - 木質バイオマスの利活用の推進



- 清流を守り・育て・活かす
目標：アユの放流量と漁獲量50%増を目指す。
- アユ等の放流
 - 1 アユ放流事業への支援
 - 2 水源井戸の整備
 - 3 アユ中間育成とサケのふ化場の併用施設整備
 - 4 サケふ化施設の遊休期間を活用したアユ種苗生産の増大
 - 5 中間育成技術の継承と人材確保・育成
 - 6 環境モニタリング
 - 7 魚道改修・修繕の検討・実施
 - 8 河川工事における環境対策
 - 9 水辺林、溪畔林の整備
 - 10 計画的な保安林の指定
 - 11 合併浄化槽の整備
 - 農業等の低減
 - 間伐材の搬出・主伐後の再造林



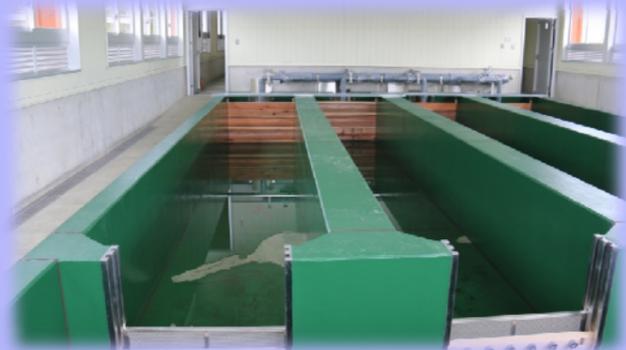
- 川を知り 川に親しむ
目標：子どもの最上小国川のイベント参加者数年間8,000人を目指す。
- 1 アユ釣り教室の開催
 - 2 川魚のつかみ取り大会や放流事業の開催
 - 3 イワナ、サクラマス等の産卵場造成
 - 4 遊魚券の販売促進
 - 5 ふながた若鮎祭りにおけるアユ利用拡大
 - 6 釣り場のアクセス改善
 - イベントの連携検討

- 治水や治山で自然と共存する
目標：50年に1度の洪水を安全に流せるようにする。
- 1 最上小国川流水型ダム整備
 - 2 河川整備 (長沢地内)
 - 3 河川整備 (大堀地内)
 - 4 赤倉地区内水対策
 - 5 河川情報の提供 (ライブカメラ設置)
 - 防災意識向上の推進
 - 河川の効果的な維持管理
 - 水位等の河川情報の提供
 - 克雪対策の推進

舟形町サケふ化場の完成！



H28.10.28 サケふ化場落成式



サケふ化場飼育室

10月28日、舟形町サケふ化場の落成式が行われました。

舟形町長者原地区には、昭和27年に建設されたサケふ化場がありますが、老朽化が進んでいました。また、既存の施設は浅井戸のため、ふ化・飼育するための水温が高く、採卵初期は、舟形地区の鮎中間育成施設に収容せざるを得ないなど、健康な稚魚の育成や効果的な事業に支障をきたしていました。

そのようななか、舟形町・最上町・小国川漁業協同組合・山形県等関係者を構成員とした最上小国川流域産地協議会を平成25年8月に設立しました。

協議会で合意形成を図りながら、国の補助事業である「強い水産業づくり交付金事業」を活用して、サケふ化場の整備を行いました。

今回、新しい施設が完成したことにより、サケや鮎の増産が可能となり、放流が増加するなど、今後、地域振興の拠点の一つとなることが期待されます。

◆施設概要

- 平屋建て ○延床面積 237.6㎡
- ふ化槽 12槽 ○飼育池 4池 ○新設井戸 3基
- 舟形町産業振興課：32-2111（代）

瀬見温泉共同浴場「せみの湯」完成！

4つの温泉を備えた新たな温泉スポットが6月1日に誕生しました。源泉かけ流しで4つのお湯を楽しむことができます。

入浴料は、中学生以上が1回400円で、小学生以下は無料です。営業時間は、午前5時から午後8時までです（午前9時から12時までは清掃のため、入浴できませんのでご注意ください）。

◆4つのお湯の紹介

①内湯「なごみの湯」。名前には、町内外の人がみんなで温泉に入ること、和やかな気分と和やかなひとときを感じてほしいという意味が込められています。

②露天風呂「やげんの湯」。義経弁慶伝説で有名な瀬見温泉。産湯を探した弁慶がなぎなたで岩を砕いたところ、温泉が湧き出てきたという話からその名を頂戴しています。

③名物「ふかし湯」。入浴時は浴衣やバスタオルを巻き、穴から吹き出す湯気に身体を当てます。サウナとは異なる全国的にも珍しい入浴方法の温泉です。

④入口「足湯」。広めにつくられた足湯は料金無料で入ることができ、近くの源泉場では温泉卵を作ることができます。

●瀬見温泉観光案内所：42-2123



やげんの湯



なごみの湯



足湯



ふかし湯

みんなで守り・引き継ぐ「清流最上小国川」

最上小国川流域では、きれいな川と住みよいまちづくりの一環として、地域住民をはじめ、様々な方々が、河川清掃に取り組んでおります。

5月9日から5日間、小国川漁業協同組合の皆さんが、小国川でゴミの回収を行いました。今回の取り組みでは、合計13.6tものゴミを回収することとなりました。

最上町では、6月19日、町内一斉の河川清掃を実施しました。当日は、早朝から約2,100名もの皆さんにご協力いただき、約1tのごみを回収しました。

舟形町では、6月29日、鮎釣り解禁を前に、町内一斉の河川清掃を実施しました。当日は、早朝から約1,200名もの皆さんにご協力いただき、約3.5tごみを回収しました。

このほか、河川愛護活動団体の皆さまも、河川清掃に取り組みされており、地域全体で、清流最上小国川を守っていただいています。

皆さまの取り組みによって、清流最上小国川が次世代に引き継がれます。皆さまの御協力に感謝申し上げます。



建設が進む流水型ダム



H28.10.11 ダム堤体コンクリート初打設

■工事現場の移り変わり



平成28年4月
雪解け後（上流より）



掘削作業中



コンクリート製造用
仮設プラント建設



平成28年10月
掘削工事がほぼ完了

10月11日（水）に流水型ダム建設現場において、堤体コンクリート打設の安全祈願祭と初打設見学会が行われました。

昨年まで河川を切り回すトンネル工事を行ってきましたが、春先から河川をトンネルに導く作業を開始して、4月25日に河川をトンネルに転流しました。その後、ダム堤体部分の掘削作業に入り、重力式コンクリートダムを支える基礎岩盤を確認しながら、約5万7,000m³を掘削しました。また、掘削作業を進めながらコンクリートを製造する仮設プラントの建設を行い、コンクリート初打設を行いました。

今後は、来春以降本格的なコンクリート打設作業に入りますが、これまで同様に河川環境の保全に配慮して、工事を進めていきます。

●最上小国川流水型ダム建設室：29-1407

【編集後記】今後も最上小国川清流未来振興計画に掲げた施策の取り組み状況を紹介していきます。また、最上小国川清流未来振興機構のホームページでも、施策の取り組み状況や流域での地域づくり活動・観光情報などを掲載していますので、是非ご覧ください（<http://seiryu-mogamiogunigawa.jp/>）。

【お問い合わせ先】最上小国川清流未来振興機構（山形県最上総合支庁総務企画部総務課連携支援室内）：29-1240